

花卉部会

カスミソウ

花卉販売担当 岩下将久郎

特製シールでアピール 11月22日の「いい夫婦の日」



11月15日から21日の7日間、カスミソウの花のイラストも入れてリニューアルした特製シールを出荷箱に貼って、アピールしました！「いい夫婦の日はカスミソウ」県下JAグループ統一シールです。

気候変化で開花が早まっており、県内産地、市場、販売店が協力し工夫をしてPRしています。定期注文も増え、相対取引も開始。フラワーアレンジ用の染めカスミの注文もあります。

※花卉部会・カスミソウ専門委員会は、地域に合った品種の栽培試験や現地検討会、日持ち試験を重ね、品質向上と日持ちのいいカスミソウを目指しています。部会員全員の品質を均一化するための出荷前検査の強化で、さらなる品質保持に努めています。

※管内の宿根カスミソウ栽培面積の8割を占める主力品種「アルタイル」は、花粒が大きめで、白さが際立ち、アレンジや花束、生花など、幅広い材料として人気です。日持ち試験の継続と検査員による出荷前の厳しい検査で、菊池のアルタイルは日持ちがいいと市場での評価も高く、人気商材です。

トルコギキョウ

花卉指導員 富田惇志

芽整理作業動画で品質向上に期待

県北広域本部農業普及・振興課に協力していただき、技術力向上を図ることを目的に「芽整理作業のマニュアル動画」を作成しました。



トルコギキョウ専門委員長の本山達也さんの圃場で撮影しました。本山さんは「難しい芽整理作業ですが、動画で確認できることで部会員の悩みを解決し、品質向上も期待できます」と話しています。

芽整理作業は重要で、芽を摘み、花の数を絞ることで1つ1つが大きくなり、同時開花が可能となります。産地としての市場からの高い評価を維持できるよう取り組んでいきます。

動画は編集後、部会員に披露し、活用していきます。

査定会・現地検討会

出荷本番前の11月12日、出荷査定会を開き、芽調整、収穫、調整、選別、仕立ての5項目に細かなチェックポイントを定め、部会員の意識を統一しました。出荷が例年より1週間ほど遅れました。



天候不順により、栽培管理も難しくなっています。現地検討会や全体研修を増やして状況を確認しながら、部会員同士の情報交換を密にし、品質の良いトルコギキョウを出荷していきます。



※花卉部会・トルコギキョウ専門委員会は、品種検討会などを定期的に行い、地域性や季節感、消費者ニーズに合った色や形に応えようと品種検討を重ねています。現在の出荷品種は約200種類。生産者20人が6月まで出荷します。

スナップエンドウ部会

北営農センター 橋口裕幸

チョウ目害虫防除徹底を

出荷本前の栽培講習会を10月24日、北営農センターで開きました。県北広域本部農業普及・振興課堤志保主任技師より、10月上旬に多発したチョウ目害虫の防除対策を中心とした講習を行い、出荷規格や出荷時の注意点などを確認しました。現地にも出向き検討会も行い、栽培に関する課題などを共有し、理解を深めました。部会員の田中一範さんは「今年は虫が多く管理が大変ですが、毎日の生育が楽しみで頑張ることができています。防除作業を徹底し、今後は寒暖差に注意していきます」と話しました。



※部会員は15戸。150aを栽培。11月中旬から翌5月上旬まで出荷。出荷数量3tを見込んでいます。

ほうれん草部会

営農指導員 山野邦彦

10月中旬に目慣らし会

令和6年産出荷目ならし会を10月24日、西営農経済センターで開き、部会員ら11人が参加。品質安定に向けた出荷規格や生産・出荷に関する統一事項などを確認しました。令和7年3月下旬まで出荷は続き、85tの出荷を見込んでいます。安定出荷の実現と出荷予測への取り組みの徹底を呼びかけました。



木村匠伸部会長は「消費者の方から、今まで食べた中で一番美味しかったとの声をいただきうれしかった。気候変動により、栽培環境はきびしくなっていますが、安定出荷ができるように部会全体で力を合わせ努力していきます」と力を込めました。

生姜部会

営農部園芸課 後藤真智

11月中旬に収穫終了 ショウガの収穫は11月中旬で終了。倉庫で貯蔵し、1月まで定期出荷を行います。収穫したショウガは、圃場で1コンテナ15kgに詰めて貯蔵します。洗いや箱詰めの手間が省け、農家の労力軽減にもなっています。

ショウガ栽培歴21年の葛原慎也さんは「高温対策として、灌水チューブとスプリンクラーを前年より増やし、管理作業を徹底。例年に比べ小ぶりのようですが品質は良好です。香りもいい」と話しています。

近年の猛暑による栽培環境は厳しくなっています。生産現場に寄り添った対策を行い、産地継続が出来るように生産者の意識や環境を整えていきたいと思ひます。

※部会員30戸、3.8haを栽培。出荷量は約60t。部会のショウガは全て契約販売です。



甘藷部会

営農指導員 西 淳史

品質良好出荷中 甘藷(かんしょ)部会では8月中旬から収穫が始まり、貯蔵作業をしながら11月中下旬で収穫作業終了。専用の貯蔵庫に保管して、寝かせることで糖度がのって甘くなります。年明けの1~3月に出荷最盛期を迎え6月まで出荷は続きます。



永田宏治部会長は「いい芋ができています。多くの人に食べてもらいたいです」と話しています。

※品種は、ほくほく食感の高系14号「ほりだし君」と、貯蔵後にしっとり甘くなる「べにはるか」。部会員29戸が、約66haで栽培。